

日蓮の著書に於ける善無畏三藏の法華經肝心呪に就て（竹田）

日蓮の著書に於ける善無畏三藏の 法華經肝心呪に就て

竹田 日潤

日蓮（1222-1282）は其著開目抄⁽¹⁾に於て『善無畏三藏（637-733）の法華經肝心呪は南天竺鐵塔中の法花經の肝心眞言也』と云ひ、又、⁽²⁾註法花經に於て、此法花經の肝心陀羅尼は無畏三藏南天竺鐵塔中に於て之を得、金剛智、不空、一行阿闍梨等相傳の祕密神呪也（取意）と註してゐる。眞言とは呪、梵語には mantra と云ひ陀羅尼曼怛羅とも神呪とも云ふ。善無畏の法花經眞言とは次の文である。

曩謨三曼陀沒駄南⁽³⁾ 歸命普佛陀。唵⁽⁴⁾ 三身如來。阿阿暗惡⁽⁵⁾ 開示悟入。薩縛殺陀枳攪⁽⁶⁾ 一切佛知。婆乞羯毗耶⁽⁷⁾ 見。誡誡曩三婆縛⁽⁸⁾ 如虛空性。羅乞叉儺⁽⁹⁾ 離塵相也。薩哩達磨⁽¹⁰⁾ 正法也。浮陀哩迦⁽¹¹⁾ 白蓮華。蘇駄覽⁽¹²⁾ 經。惹⁽¹³⁾ 入。吽⁽¹⁴⁾ 遍。鏝⁽¹⁵⁾ 住。發⁽¹⁶⁾ 歡喜。縛曰羅⁽¹⁷⁾ 堅固。羅乞叉儺⁽¹⁸⁾ 擁護。吽⁽¹⁹⁾ 空無相無願。沙婆訶⁽²⁰⁾ 決定成就。

曩謨 namanah は南無、歸命、歸敬の義である。

三曼陀 samanta は普通の義である。

沒駄南 buddhanam は諸佛の義、ブツドハ⁽²¹⁾は覺の義で佛陀、ナンは諸の義、ナマフを加へて歸命普佛陀である。沒駄南と註の歸命とが日蓮の註法華經、昭和定本の日蓮遺文、足利時代印刷の著諸

尊眞言句義抄等には記されてゐない。但だ日蓮の縮遺だけにある。平安朝の小野仁海著、諸眞言要集⁽²²⁾中の有無は不明であるが沒駄南の三字は眞言の定例であつて之を缺くは呪の意義を失ふのである。

以上は法花肝心呪の序で歸敬文、次の唵から吽迄は本文、最終の沙婆訶は結文であるが之を辨へねば呪文の正解は不可能である。

唵 om は一切諸法最初根本の聲で歸敬語の次に置かれ『正に如斯し』との證明で感嘆詞の噫！であり、無我、南無の義ともなる。

唵は又オウンエンの三音を生じてアウムの三天、法報應の三身佛ともなるのであるが、茲では單に、噫！で宜いと思ふ。

阿阿暗惡 a a arid は開示悟入、發心修行菩提涅槃、東西南北等の義、アは一大字母として一句の全意を包含し、アーアンアの三字母はアの變化である。アは唵の如く一切諸法根本の聲であつて眞理の根元であり、且つア字は本來不生、本有常住の義と云つて不生不滅の久成本尊佛、本因本果の結晶本法の妙法五字、九界の衆生等をも具足し、東方日出の本地發心門に於て壽量品の教主釋迦本尊佛の知見たる本佛御心中の一念三千⁽²³⁾を具足せる是好良藥の南無妙法蓮華經を開くのがア字であり、所化已心の本佛は天月の影である。

阿 a はアの變化で修行點であり、南方の示佛知見である。

暗 arid も亦アの變化、空の菩提點、西方の悟佛知見である。

惡 ar も亦ア字の變化、涅槃點、北方の入佛知見である。

薩縛殺陀枳攪沙乞羯毗耶 sarva-buddha-jāna-sakso bhyaḥ サルバーは一切、ブツダハ⁽²⁴⁾は佛陀、キーノ⁽²⁵⁾は知、サキシニビヤは眼見、以上で『一切の佛知見は』の義、水月の我等に具する天月釋迦本尊佛の知見は一念三千の妙法蓮華經であるとの意である。

誡誡曩三婆縛 sagana sanibhava ギヤギヤノウは虛空の義、サ

ンバは性の義、廣大無邊なる虚空の如き佛性の意である。

羅乞叉彌 *lavacā* は離塵相の義、法身を具する事⁽¹⁴⁾三十二相八十種好の久成釋迦本尊佛であるとの意である。

薩哩達磨浮陀哩迦蘇駄覽 *saddharma-piṇḍarīka-sūtraṇ* サツドは薩であり正良善の三義を含める妙であり具足の義である。ダルマは法、ブンダリカは白蓮華、スートラムは經の義である。該の法花經肝心眞言の全文中に於て所謂肝心たる扇の要目に當る所は薩たる妙⁽¹⁵⁾の一字である。國王の夫人たる妙から生れた王子が國主本尊佛となるのである。本有⁽¹⁶⁾の三因たる佛母正法から生れない本佛も衆生も斷じてあり得ない。さりとして能生の女性たる妙法五字の曼荼羅を以て父王其物の本尊とする事は日蓮教を亡すものである。

惹咩鑊發 *jāh-hūm-van-kom* ジャグは佛知能入の義、フームは諸法本體の義、ブンは遍く十方世界に安住するの義、コクは法悅歡喜の義、以上弱咩鑊斜で入我我入即身成佛の意である。

縛曰羅羅乞叉哈 *vaṭṭarakṣamari* バザラは堅固、アラキシヤは擁護、マンは無我、無慾利他の信仰者であつてこそ始めて釋迦本尊佛は堅固に御守護あるなれ、との意である。

咩 *hūm* は一切諸法終極の聲で本文の終りに用ひられる字であり感謝の結言である。空無相無作の三解脱を得た滿願の證言である。

沙婆訶 *savāha* は呪文最終の字で決定圓滿吉祥成就義である。

以上法花經肝心呪全文の意を要結すれば、大島伸太郎氏の説では『一切諸佛に歸命し奉る。虚空と共に廣大無邊なる佛知見を開示せられたる妙法蓮華經に依つて菩提心を導入し堅固に擁護せしめ給へ』とある。妙法五字中の佛を善無畏は大日如來と見たであらう。

日蓮の開目抄は少分迷門的である。私は本門思想たる觀本抄の御聖

日蓮の著書に於ける善無畏三藏の法華經肝心呪に就て（竹 田）

意に依て開目抄の法花經肝心呪を要譯すれば左の如くである。

一切の諸佛を統一し包容せる妙法蓮花經中の釋迦本尊佛に南無し奉る。噫！教主釋尊御一念の三千具足三種世間たる佛知見を藥味の寶珠⁽²¹⁾として包める是好良藥の南無妙法蓮花經が我等衆生に具足せる事を開示悟入せしめん事よ。虚空の如き廣大無邊なる法中三身佛の法性と、報應二中三身佛の顯本たる三十二相八十種好の實相とを具足せる佛種子一念三千の妙法蓮花經こそ我等の心中に具足せる一切の佛知見にてあれ。此妙法具足の本佛知見中に悟入し遍く安住して歡喜せば入我我入せる無我の我等を堅固に守り給ひ、以て無始⁽²⁵⁾の古佛と等しき今者⁽²⁶⁾已滿足の三解脱をば不求自得して現世に即身成佛せしめ給はん事決定として疑ひなけむ。吉祥あれ。（御叱咤を請ふ）

- 1 定本五七〇頁縮遺七八三頁、2 拾遺三一頁註法花經卷十、
- 3 兜木教授の御指示に依る、4 5 啓蒙卷六ノ七二二頁、
- 6 荻原雲來文集九〇二頁、7 觀本抄定本七一二下四行、
- 8 同七一一下四行、9 開目抄定本五七〇下四行、10 同五六
- 九上七行、11 同五七〇上七行、12 觀本抄定本七一二下四行、
- 13 開目抄定本五五三上三行、14 同五七〇下五行、
- 15 開目抄定本五七〇上六行、16 同五七〇下五行、
- 17 觀本抄定本七一〇上八行、18 同七一〇下二行七一一上三行、
- 19 同七一九下七行、20 立正大學論叢創刊一七九頁、
- 21 觀本抄定本七二〇下二行、22 開目抄定本五七〇下三行、
- 23 觀本抄定本七一上六行、24 同七一上二四行、
- 25 同七一一下二行、26 開目抄定本五七〇末行、
- 27 同六〇四下三行、28 同五七九上四行、